

## 第3回知多市都市計画マスタープラン策定委員会 議事録

日 時：令和2年2月10日（月） 午前10時00分～11時40分

場 所：知多市役所 3階 協議会室

出席者（委員）：9名

（事務局）：5名

### 議事内容

1. 開会
2. 議題
  - (1) 第2回策定委員会の意見への対応
  - (2) 知多市都市計画マスタープラン地域別構想について
3. その他
4. 閉会

### <主な意見（順不同）>

- (1) 第2回策定委員会の意見への対応  
質疑応答なし
  
- (2) 知多市都市計画マスタープラン地域別構想について

### <主な意見（順不同）>

- (1) 第2回策定委員会の意見への対応  
質疑応答なし
  
- (2) 知多市都市計画マスタープラン地域別構想について  
委員長： 地区別会議の運営についての確認だが、4地区で合計30名程度の参加者だと聞いている。  
地区別に参加者数の偏りはなかったか。  
事務局： 1地区につき6名から9名の参加者に集まっていた。  
委員長： 臨海地域について、4地区の参加者から何か意見は出なかったか。  
事務局： 特に意見はなかった。
  
- 委員： 資料3のP2、ゾーン別人口密度図について、人が住んでいないということで農地や学校施設などが白地で表現されているが、それであれば佐布里池も白地にしたほうが良いのではないか。  
事務局： 佐布里池は人が住んでいないため、ご意見を踏まえ検討する。

委員： 資料3のまちづくりの基本目標について、P12の「7つのまちがまとまり、地域のつながりが強いまちづくり」とは、さらにつながりを強めようという意味なのか。

事務局： 東部地域は7つの行政区に分かれているため、まとめていきたいという思いがある。

委員： それであれば、「一体感のあるまちづくり」などの表現にした方が良いのではないか。

委員長： 7つの行政区とあるが、行政区とは自治会のことなのか。この行政区について書かれているのは東部地域だけだが、他地域は行政区がまとまっているということなのか。

事務局： 東部地域は狭い地域内で7つの自治会があるということが特徴となっているためこのような表現をした。他地域にも自治会は複数ある。

委員長： 東部地域だけ7つの自治会が出てくるのが分からなかったのだが、住居地域という前提での話なのか。

事務局： 概ね住居系の地域であるため、「まとまり」という意見が地区別会議でも出ていた。

委員長： 「つながり」は、別々のものを繋げる印象がある。「まとまり」の方が良いと思う。

委員： P18「まちの中心に人々が集う、コミュニティの拠点があるまちづくり」が何を言っているのかよくわからない。コミュニティの拠点をこれからつくるといったことなのか。

事務局： 中部地域については、観光拠点があるのでこのような表現にした。

委員長： 中心に集う「人々」とは、外からくる人々という印象である。

事務局： 地区別会議で、まちづくりセンターを核とする、という意見が出ていた。それを拠点と表現した。

委員： 交流の中心とするのであれば、表現を検討した方が良いと思う。コミュニティの拠点とは違う。

委員： 地域区分と小、中学校の区分が違う区分になっている。福祉の生活支援も中学校区を単位としているので統一しないとわかりにくい。

居住区域の人のコンパクトシティを示すものと、外部からの集客など、外から人を入れるもので主語が不明確でわかりにくい。

知多市全体の中で流動的にどう暮らしよさと観光の人の動線をつくっていくのかという方針が欲しい。テーマに応じた地域別構想があっても良い。流動性のあるものとなないもの、市民と外部からの人、それぞれ整理をしないとわかりにくい。

事務局： 今回は地域別構想なので地域別に分けている。全体的な方針については全体構想で記述することになる。地域区分は前回計画を継続した形になっている。

委員長： それぞれの地域のまとまりとは、どのような視点で捉えたのか。立地特性が類似したと書かれている。

事務局： 中学校区を基本としつつ、北部地域については、つつじが丘を中心に市街地が東へ形成されていった。東部地域は、巽ヶ丘を中心に旧市街地と名鉄の開発により市街地が形成されていった。中部地域は歴史的にも古い地域である。南部地域は農地を主体として形成されてきたまちだが、新舞子については海岸が観光地であり、一部名鉄による別荘地的な開発がされている。臨海地域は工業中心のまちづくりがされてきた。変則的ではあるが、まちが出来てきた経緯を見てこのように区分されている。

委員長： 区分については、地域ごとに特性を持たせたまちづくりにしたいという全体の方針があり、また、知多市全体の地理を活かして地域別の構想をつくる、ということで良いか。

事務局： それで良い。

委員： 知多市は旧3町の分けで成り立っていた。土地所有者やまちの風土によりこの区分があったため、それを引き継いでいるのではないか。

委員： これから先の10年を見るのに、この区分けで良いのか。市民の感覚があまり反映されていないと思う。

事務局： これから区分けを変えるのは難しいが、今後の課題とさせていただく。

委員長： それぞれの地域が独立して何かをするのではなく、全体のまちづくりの中での役割または共通点が反映されていれば良い。地域ごとの特色も入れていくことも踏まえ基本目標の表現を検討していただくと良い。

委員： 東部地域は住宅地が中心となっているため、住民同士の共通目標が形成されやすいと思う。少し表現を考えていただきたい。

中部地域において、ここは交流拠点の指定はない。観光協会としては、祭りやイベントを開催するなどして、外からのお客を迎えるための体制づくりをしている。インバウンドを考えると、交流拠点の位置づけを検討してほしい。

事務局： 全体構想では観光や交流の観点から副次的都市拠点として設定している。

委員： 佐布里池、岡田、新舞子を3大観光拠点としているので、位置づけを検討してほしい。

事務局： 検討する。

委員： 臨海地域のマリパークだけ南部地域に含めることはできないか。観光名所としては南部地域の一部として考えた方が良いのではないか。南部地域の活動の場が増えると思う。

事務局： 地域別構想の中では観光拠点ではあるが、人が住んでいないため分けさせていただいた。広域交流拠点としてはマリパークも含まれている。

委員： 南5区については名古屋港管理組合が管理している。現時点で修景工区になっている計画だが、具体的な計画がない。グラウンドについても暫定利用となる。

委員長： 土地利用が臨海地域の一部として行われているということである。将来的に南部地域と一体的に土地利用ができるようになれば検討すればよい。

委員： 東部地域について、八幡台の住民はほとんどが南加木屋駅を利用する。文章の表現が東部地域の住民は八幡新田駅と巽ヶ丘駅しか利用していないように読み取れる。

事務局： 図面への表記を検討する。

委員： 各地域に日常生活に便利で安全で安心して暮らせる住宅地の方針を入れて欲しい。健康福祉拠点を全ての地域に入れて欲しい。

委員長： 地域別構想には、どこにでもあるべき基本的な事をここに記述するのではなく、特徴的なものを記述した方が良い。

(第3回知多市都市計画マスタープラン策定委員会 会議録)

委員： P31のグリーンベルトについて、防災性について記述されているが、直下型地震で被災した場合の爆風や熱が住居地域に来るのを少しでも和らげるという意味でも非常に重要で、大切な機能なので追記してもらいたい。

事務局： 追記する。

委員： 災害が起こった時の瓦礫処理の場所を考えておくことは構想として持っておいた方が良い。

委員： 防災計画の中で既に位置づけ、公表している。道路等の指定も、各家庭に配布した地図にも示している。市のホームページで確認していただける。

委員長： いくつかご指摘いただいた。多くは文言の修正だが、中には他部署との調整が必要なものもある。よろしく願いたい。

以上